

膠原病

友の会だより

号 2
昭和47年 膠原病
友の会
事務局

難病対策の予算、一歩前進

膠原病の治療研究にも

明るくい見通し

昭和四十七年度の厚生省予算が、いよいよ固まりました。難病その他の特定疾患、対策関係費は、五億三千九百万という、今までにない進歩がありました。

こうした結果の背景には、難病友の会連絡会など、難病関係患者会の積極的な働きかけや、パーキンソン病を救う医師の会を中心とする難病対策基本法制定の活発な運動があります。

この予算の内訳は、おもに次の通りです。

「研究費」二億二千百万円

これは、膠原病・パーキンソン病無きなどの研究を推進させるためのものです。その細目はまだ未定です。

「治療研究費」二億三千百万円

これは、名目上研究費ということになっていますが、実質的に患者治療費の公費負担分に重点を置いて使われる予定である。この対象になる疾病などについての細目は、専門の委員会のようなものを作って検討をすすめていく方針のようです。

「実態調査費」二億四百万円

「特定疾患対策室の設置」これは、難病などの特定疾患についての専門的窓口も厚生省内に設けることですが、専任の保官が三人と兼任者が二人設置される見こみです。このように、今後の難病対策への足がかりとなる予算が、決まったことは、私達膠原病患者にとっても明るいニュースです。なお、今後は難病対策基本法の成立に向けての運動や、地方自治体での難病対策の向上のための働きかけなども大切なことになっているようです。同じ各都道府県より補助も、今度の国会が通れば、新年度より実施の予定、みんなで力を合せて頑張りましょう。

事務局よりお知らせ

友の会も一月二十日現在で会員は二百六十名となり、会の二層の発展のために努力したいと思っております。

去る一月二十七日午後、顧問の方々と会合し、今後の方針について御意見、御指導とたまわり協議の結果次の事が決定いたしました。

○機関紙の発行も出来るだけ早く定期的にします。

○膠原病手帳を作成する(療養の手引と検査成績表とまとめたもの)

○運営委員会の準備会を二月十日に開催する

○運営委員と定めの中より、おれおれ組織、企画、渉外、会計など業務を分担する。

出席者

順天堂大学 塩川先生・橋本先生

顧問 西来氏

難病救済医師会 福山氏

保健同人 吉野氏

友の会 森田かよ子・佐藤エミ子 (事務局)

以上

みなさん、私達の会をより立派な心強い会に育てる様ご協力をお願いいたします。まだ、長い冬です。どうかくれぐれもご自愛下さいませよう祈ります。

一月三十一日

(事務局より)